

気づき、考え、実行する さし人つうしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.26
令和4年2月28日
文責：校長 松野克己

勝野先生による合唱指導



感染防止のため、間隔を広くとって、マスクもつけて練習しています。しっかり口を開けたり、声を前に響かせたりといった指導がなかなかできないため、指導者も6年生児童もやりにくそうです。でも、仕方がないと思っています。卒業式当日もマスクをつけたまま歌うことになりますから、会場内に声がこだまするような歌にはならないでしょうが、主役である自分たちのために心を込めて歌ってくれることでしょう。

卒業式で歌う歌の練習を進めています。例年、大名小路にある「かつのポピュラー音楽教室」の勝野耕治先生に専門的な指導をしていただいています。下の写真は6年生の練習風景ですが、写真のように



3年生黒崎神社たんけん

2月1日(火)に3年生が地域学習の一環として、黒崎神社をたんけんしました。途中、子供たちの目をひいたのが恵比寿様です。今はどちらかという



商いの神様という認識が強いようですが、元は漁業の神様であり、クジラがそのモチーフとなっているそうです。

右の写真のように、100段以上もある急な階段を上ると、神社の拝殿やこま犬が目に入ります。さらに、裏手に回ると、割と新しい本殿があります。佐志八幡宮も含め、地域にこのような立派な神社があるのは誇らしい



ことですし、歴史的なことを調べてみるのもおもしろいかもしれません。

1週間後の2月8日(火)には、唐房のお住まいの堀川義英先生に来ていただき、神社のことや恵比寿様のことなどのお話を聞きました。難しいところ

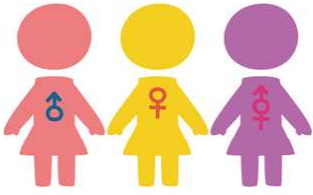
もありましたが、この佐志や唐房で朝鮮半島との交易が行われていたことや、唐房の1~7丁目それぞれに神様が祭ってあること、クジラが捕れていたことや浜田城というお城があったことなどを学びました。このような体験的な学びから、地域を誇りに思う心も育ってくれたらと思います。



第3回人権の日集会・・・性の多様性について考えよう

最近、性同一性障害とかLGBTといった言葉を見聞きしたことはないでしょうか。例えば中学校や高校の制服で男子はズボン、

女子はスカートということに対する問題意識が高まっていることも、このことに関係します。また、「性的マイノリティー」という人権課題がクローズアップされるようになってきました。誤った認識をもつと差別や偏見につながりかねない問題ですから、学びが必要です。佐志中学校区の教員は夏休み期間中に、講師を招いての研修会を行いました。そして、2月9日(水)の5時間目は、各学級で第3回人権の日集会として、性の多様性について学びました。1～4年生は「タンタンタンゴはパパふたり」という絵本を用い、5・6年生は「ライク・ア・レインボー」というビデオ教材を用いての授業を行いました。私などは子供の時から「男らしく」「男のくせに」といったことを言われ続けてきた世代ですから、受け入れるのに抵抗がないとは言えません。逆に子供たちの方がすんなり受け入れている感もあります。人種差別などの問題同様、これからはこの性的マイノリティーも人権課題の一つとして取り組んでいく必要を感じています。

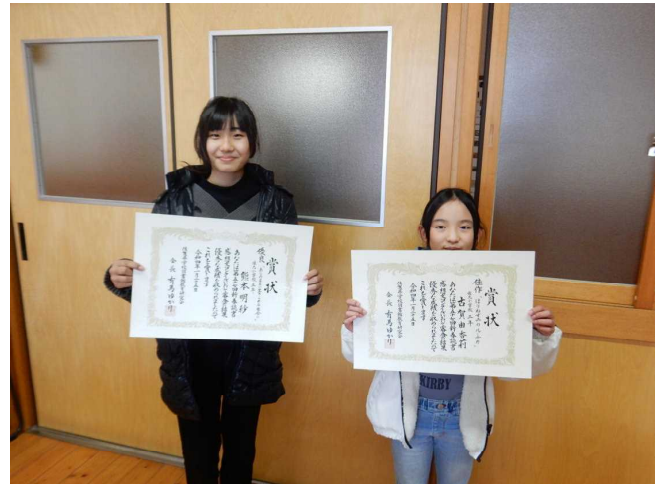


表彰をしました

この冬に実施された各コンクールの表彰をしました。本来なら、全校朝会の全児童の前で表彰すべきところですが、それができないのが残念です。



全国児童画コンクール入賞者の6名
※名前は前号で紹介ずみのため省略します。



新春読書感想文コンクール県入賞者の2名
※名前は前号で紹介ずみのため省略します。



新年書き方会県入選者の3名
4年 千葉あなか
3年 古賀ゆかり 1年 井上さな



学童美術展 立体の部 県準特選の4名
6年 坂本ほのか 3年 福島えいきち
2年 大石けいた 1年 木下そうや